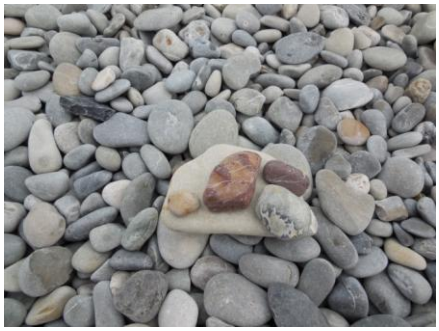
「グリコの旅あっちこっち　　フランス」

専攻科　江崎友子

旅立ち　あすなろの縄島さんとフランス、特にモン・サン・ミッシェルが憧れで、夜景も見たいとコースを選定。「まるごとフランス大周遊１０日間」のツアーにする。

６月７日、集合場所で「今日は機材の不具合で明日出発。成田に一泊、モナコ、エズ、シャガール美術館を削る」と説明される。キャンセルもＯＫだったが、次の機会は難しいので「旅にトラブルは仕方ない」と一日遅れで出発。他に振り替えた人もいて２階席もあるエアーバスは、バランスを取るためか左右窓側３席にふたりづつ、真ん中４席はずらーと空席。私は真ん中の席にするする移動、ゆったりとパリまで 12 時間過ごした。

ニース海岸の石　世界の王侯貴族に愛されたという“リヴィエラの女王”「プロムナード・デザングレ（イギリス人の散歩道）」を通り旧市街に入り、花や野菜の市が立つサレヤ広場を見、海岸に降りて石（砂浜が狭くて丸い石だらけ）を拾っているうちに青空も見えた。私はバスに乗ってから添乗員に「なぜ、模様が綺麗な石があるのか、まるで坂本竜馬の桂浜の五色石のようですね」と質問した。添乗員は、海岸に降りたことがないのか「石？今度お会いできたら、お答します」と返事をした。帰国後、インターネットに「ニース海岸の石」と検索したところ、「ニースの石は砂浜に人口的に撒いた。波にさらわれたら、また撒かれる」と記入があった。成程！衛生的ということもあるようだ。



ニース海岸の石

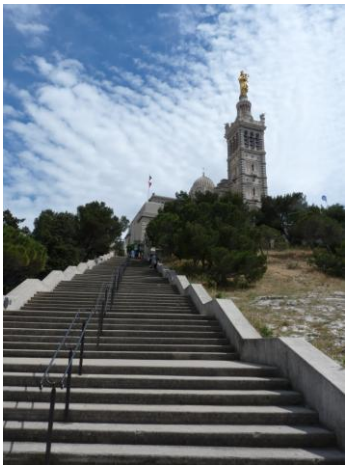
高知　桂浜の五色石

ちなみに、桂浜の石はどこから来るのかと検索すると、高知コア研究所のサイエンストピックに、仁淀川の上流から海に運ばれた後、波によって浜辺に打ちあげられる。色が美しいのは仁淀川を横断する複数の地層によるもので数千万年という時間が流れているそうだ。

セザンヌのアトリエ　エクス・アン・プロヴァンスは、かって、プロヴァンス伯爵領の首都でセザンヌは、ここのエクスで生まれ死去した。アトリエには彼がデッサンに用いた本物のしゃれこうべもあった。

フランス最古の港町マルセイユ　　2013 年欧州文化首都に選ばれ国際的なイベントが開催される。中世の頃はペストで町の人口が半分になったこともある。縄島さんはこのマルセイユの船が沢山の旧港の風景が好きだそうだ。ここで遅い昼食になり名物のブイヤベースは濃厚なスープで魚もたっぷりで美味でした。

　小高い岩山の上に建つ塔の上に金色のマリア像が輝くノートルダム・ド・ラ・ギャルド・バジリカ聖堂。中に入る時間がなく残念だったが、漁師の教会として、船が天井から飾られているそうだ。ノートルダムとは、マリア様のこと。



　一日目のニースの観光を日程に組み入れた為に、これからアルルまでちょっときつい。

アルル　ゴッホの跳ね橋

ゴッホゆかりの場所を訪ねた。橋は「ラングロワの橋」と呼ばれ正式な名は「レジネル橋」

で、現在ゴッホの橋といわれるのは、別の場所に移され復元されたもの。「夜のカフェテラス」は現在も営業中。この近くに世界遺産のローマ遺跡の円形闘技場もある。その溝にツアーの仲間がスポンとはまってしまった。若い外国の人に救い出された。
アルルのホテルは、ゆったりして、大雨、雷鳴だったそうだが、ふたりともぐっすり。

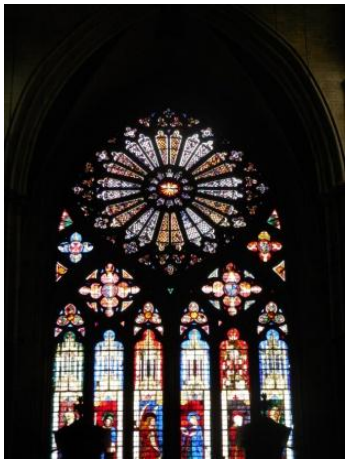
ローマ法王が中世の城壁に守られ 70 年も、アヴィニヨンに　「アヴィニョン橋で踊ろよ、踊ろよ」童謡で有名なローヌ川にかかる「アヴィニヨンの橋（サン・ベネゼ橋）」こんなに交通量の多い道路のそばにあるとは想像していなかった。しかも、すぐそばに城壁があり、そこに街があり、ローマ法王が住んでいたなんて、知りませんでした。1309 年、フランス王の圧力に屈する形で、法王庁ごとアヴィニヨンに移住。以後 70 年間、7 人の法王、すべてフランス人がアヴィニヨンで即位した。ローマに代わるカトリックの中心地として繁栄した。この旅での最大の知識を得た。世界遺産です。

世界遺産　ポン・デユ・ガール　アヴィニヨンとニームの中間あたりにあるローマ時代の水道橋。高さ訳 48 メートルで 2000 年前に作られたと信じられないほど巨大。

水路の入り口

　これからリヨンの世界遺産歴史地区の美しい景色を見にフルビエールの丘へ。
ワイングラスをかたむけている素敵なカップルを発見。おしゃれな雰囲気。さすがフランス。

世界遺産ブルージュ大聖堂



　ブルージュはケルト時代からベリー地方の中心地で、ブルージュ大聖堂はサンテティエンヌ大聖堂のこと。フランスゴシックの代表的建築。ステンドグラスが大変美しい。
この街のレストランで昼食。そこで働く年配のウエイターのきびきびした動きに感激した。

世界遺産ロワール地方の古城を訪ねて

シャンボール城

シュノンソー城

　シュノンソー城は 16 世紀の創建以来 19 世紀まで、代々の城主が女性だったことから「6 人の女の城」とも呼ばれ、２番目の城主の時の正妻と愛人の愛憎劇を偲ばれる２人の名前のついた庭が城を囲んで左右にあるのがユニークです。今日はロワールのトウールに宿泊。ホテルに近いレストランで夕食後、ふたりで駅舎を見に行く。欧州の駅はガラスの天井で開放的。終着駅そして始発駅でもある旅情が好きだ。

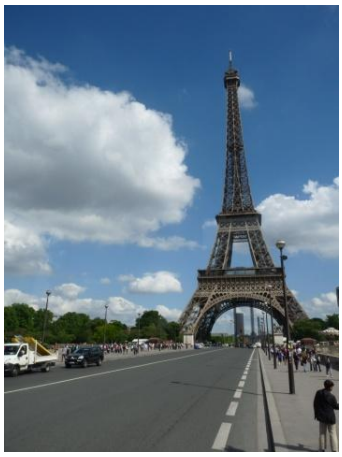
いよいよモン・サン・ミッシェルへ　トウールから約４時間、266 キロ、曇天の中をバスはゆく。バスの座席は前３列が指定席。後ろは２席ひとりでゆったり座れて人気だ。「いよいよ、見えましたよ」の声で「見えた！モン・サン・ミッセル！」小さくあの独特の姿が見えた。感動！

名物のオムレツで昼食後、現地ガイドと修道院を見学。何度もテレビ番組で見ているが、複雑な建築にガイドがいなくては、理解できない。夕食にはこの地方のりんごの発泡酒、シードルを飲む。美味しいとは思えなかった。日没が遅く夜 10 時でも明るい。ライトアップをみるのも 11 時頃。気温は低い。後で聞いたところ、翌日はストで、モン・サン・ミッシェルに入れなかったそうだ。私たちは幸運だった。

世界遺産シャルトル大聖堂　大穀倉地帯ボース平野の静かな町シャルトルにフランス･ゴシックを代表する大聖堂、ノートル大聖堂がある。「シャルトルの青」と讃えられるステンドグラスに圧倒される。ここで来年のカレンダーを購入。

シベルニー　クロード･モネの家と庭園　パリから①時間ほどのシベルニーに晩年の傑作「睡蓮」を誕生させた家と庭がある。私は「浜松花博」でモネの庭を見たが、実際の庭園は大きくてあの青い橋がひとつだけでないことを知った。

観光最終日はパリ



ルーブル美術館　　ヴェルサイユ宮殿　　エッフル塔

ルーブル美術館では見るべき作品はガイドの案内で鑑賞できたが、混雑でじっくりとはいかない。ヴェルサイユ宮殿の大きさにびっくり。エッフェル塔はさすがに存在感がある。それに引き換え本場の自由の女神はニューヨークに負けている。

凱旋門がみえるシャンゼリゼ通りのカフェテラスでカフェオレ。
セーヌ川クルーズでは、重たいレシーバーを片手に日本語ガイドやシャンソンを聴く。
川辺で寛ぐ人たちが手を振ってくれる。
明日はもう帰国。やっぱりフランスのパンは美味しい！エスカルゴ、マカロンも美味しい。
大農業国と実感した麦畑、広々した放牧場の馬、牛、羊。葡萄畑の雄大さ。ひなげしが咲き乱れる野原。個人の家の芸術的な庭。朝から酔って路上に寝ているおじさん・・・
元気な校外活動の子どもにも出会った。
今度はゆっくりパリ重点の暮らすような旅がしてみたい。
「メルシ（ありがとう）」をたくさん言った旅、「フランス　オ　ルヴォワール（さようなら）」